

- 一 復籍ヲ拒ミタル戸主又ハ廢絶シタル家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ原因及ヒ年月日
- 三 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

前條ノ場合ニ於ケル復籍ヲ拒マレタル者及復籍ヲ拒マレタル者ニアラサルモ復籍スヘキ家ナキ爲メ一家ヲ創立シタル場合ニ在テハ其事實ヲ知レル日ヨリ十日内ニ本條第一ヨリ第三ニ至ル諸件ヲ具備シテ届出ツヘキモノトス

第十七節 廢家及ヒ絶家

廢定トハ戸主カ任意ニ其家ヲ廢スルモノヲ云ヒ絶家トハ家督相續人ナキ爲メ其家ノ斷絶スルモノヲ云フナリ而シテ廢家ハ如何ナル場合ニ之ヲ爲シ得ルヤト云フニ

民法第七百六十二條ノ規定ニ依レハ新タニ家ヲ立テタル者即チ分家ニ因リテ一家ヲ立テタル者又ハ家族ノ者ニシテ新タニ一家ヲ創立シタル者ニ在リテハ何時ニテモ之ヲ爲シ得ヘシ然レトモ家督相續ニ因リテ其家ヲ繼承シタル者ハ其家ヲ廢家シ得サルモノトス但裁判所ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス蓋シ法律ノ精神ハ舊來ノ家系ヲ尊ヒ成ルヘク之ヲ廢絶セシメサルノ主義ヲ採リタル者トス又絶家ノ場合ハ家督相續人ナキ爲メ自然ニ斷絶スルモノナルヲ以テ止ムヲ得ス之ヲ認ムルモノトス故ニ民法第七百六十四條ニ於テ明カニ戸主ヲ失ヒタル家ニシテ家督相續人ナキ場合ハ凡テ絶家トナルモノトセリ然レトモ絶家ト雖トモ當然其旨ヲ届出ツルヲ要ス届出ナケレハ其籍ヲ削ルコトヲ得サレハナリ故ニ其届出ハ家督相續人ナキトキハ當然新タニ其家族ニ於テ一家ヲ創立スルモノニ付其届出ト同時ニ其旨ヲ届出テ、可ナリ

家督相續人ナキトキハ直チニ絶家トナルハ前項ニ於テ明カナルカ尙其家督相續人

ナキモ家族アルトキハ其家族ハ各一家ヲ新立セルモノトセルハ蓋シ從來ト大ニ趣ヲ異ニスル所トス(明治十七年第二十號布告參看)

(參照) 民法親第七百六十二條 新タニ家ヲ立テタル者ハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得

家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得ス但本家ノ相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

全第七百六十四條 戸主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナキトキハ絶家シタルモノトシ其家族ハ各

一家ヲ創立ス但子ハ父ニ隨ヒ又父カ知レサルトキ、他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第一百五十二條 廢家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルコトノ證明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢家シタル者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月

日、職業及ヒ本籍地

二 廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月

日及ヒ職業

廢家ヲ爲スヘキ者ハ本節ノ始メニ述ヘタル如ク家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニアラサルコト又ハ裁判所ノ許可ヲ得タルトキニアラサレハ之ヲ爲シ得ルモノトス故ニ廢家ノ届出ニハ本條規定ノ第一第二ノ事項ヲ具備シ之レニ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニアラサルコトノ證明書又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ爲ス場合ニハ其許可裁判ノ謄本ヲ添ヘテ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツヘキモノトス

第一百五十三條 絶家ノ家族ニシテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實

ヲ知りタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍

地

- 二 絶家ノ原因及ヒ年月日
- 三 一家ヲ創立シタル者ニ隨ヒテ其家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

家督相續人ナキ爲メ絶家トナリタルトキハ其家ノ家族ハ各一家ヲ創立スルモノナルコトハ亦本節ノ始メニ述ヘタル所ナリ然シテ絶家ニ因リ一家ヲ創立シタル家族アルトキハ其者カ一家ヲ創立セル事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ本條規定ノ第一ヨリ第三ニ至ル各事項ヲ届書ニ記載シ而シテ其絶家及一家創立ノ事項ヲ戶籍吏ニ届出ツヘキモノトス

第十八節 分家及ヒ廢絶家再興

分家トハ戶主ノ家族カ一家ヲ分立スルモノヲ云フ即チ其家族ハ分家ニ因リ一戶ヲ

新 戶 籍 法

新立シ其家ノ戶主トナルモノトス而シテ戶主ノ全意ヲ得ハ其家族ニ於テ何時ニテモ分家ヲ爲シ得ルナリ但其家族未成年者タルニ於テハ其親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ全意ヲ要ス

廢絶家再興トハ廢家又ハ絶家セル家ヲ復立スルノ謂ニシテ即チ其再興ニ因リテ前家ヲ再興シ且其遺留財産ヲ相續シ得ルモノトス而シテ絶家ノ場合ニ在リテモ分家ト同シク家族ノ者ニシテ其戶主ノ全意ヲ得タルトキハ何時ニテモ親族其他縁因アル家ヲ再興シ得ルナリ

分家ニ因リテ一家ヲ新立シタル者及廢絶家再興ニ因リテ其家ヲ復立シタルトキハ其者ノ族稱ハ凡テ平民トナルモノトス蓋シ分家ノ場合ニハ其者ノ平民トナルハ疑ナカルヘキモ廢絶家ニ因リテ其家ヲ復立シタルトキハ前家ノ族稱ヲ繼續スルヤ否ヤハ疑ナキニアラス然レトモ廢絶ノ當時已ニ其族稱ヲ消滅セルモノナルヲ以テ前家ノ族稱ヲ繼續シ得サルコト從來ト同一ナルヘシト思料ス

(参照) 民法親第七百四十三條 家族ハ戸主ノ同意アルトキハ他家ヲ相續シ、分家ヲ爲シ又ハ廢絶シタル本家、分家、同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一百五十四條 分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之

ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 本家ノ戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト分家ノ戸主ト爲ルヘキ者トノ續柄
- 三 分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 四 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名、職業

新 戸 籍 法

及ヒ本籍地

分家ノ届出ハ何人ヨリ之ヲ爲スヘキヤト云フニ其分家ヲ爲サントスル者ヨリ届出ツヘキモノニシテ其届書ニハ本條規定ノ第一ヨリ第四ニ至ル各事項ヲ具備スルヲ要ス但各事項ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明カナリ
本條ノ届出ニハ別ニ期間ヲ附セサルヲ以テ何時届出ヲ爲シタルトキト雖トモ本法罰則ノ制裁ヲ受ケサルハ元ヨリ言ヲ待タス然レトモ之カ届出ヲ爲ササルトキハ其事件ノ効力ヲ生セサルモノナルヲ以テ其事件ニ付有スル權利ヲ主張スル能ハス但
他ノ事件ニシテ本法ニ期間ヲ定メサルモノ亦凡テ同シ

第一百五十五條 廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ

テ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

新 戸 籍 法

新 戶 籍 法

二 廢絶ノ原因及ヒ年月日

三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄

四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

廢絶家再興ノ届出ハ其再興ヲ爲スヘキ者ヨリ届出ヲ爲スヘキモノニシテ其届書ニハ本條規定ノ第一ヨリ第五ニ至ル諸件ヲ記載スルヲ要ス

第三號ノ廢絶家ト其再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄トハ即チ本分家又ハ親屬等ノ間柄ヲ云フナリ

第一百五十六條 分家又ハ廢絶家再興ノ届出人ハ届書ニ戸主ノ同

新 戶 籍 法

意ノ證書ヲ添ヘ又ハ戸主ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百四十三條但書ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ之ヲ準用ス

分家又ハ廢絶家ヲ再興スル場合ニハ其家族ノ属スル戸主ノ同意ヲ要スルコトハ民法第七百四十條(本節ノ始ニ在リ)ノ規定スル所ナリ故ニ其届出ニ付テハ戸主ノ同意ヲ証スル爲メ之レカ證書ヲ添付スルカ又ハ其届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ署名、捺印セシメテ差出スヘキモノトス又未成年者ノ家族ニシテ分家又ハ廢絶家ヲ爲ス場合ハ其戸主ノ同意ヲ要スルノ外更ニ親權ヲ行フ者即チ父又ハ母若クハ後見人ノ同意ヲ要スルモノニシテ(全條但書)此場合ノ同意ヲ証明スヘキ方法モ亦前項ノ規定ニ依リ手續ヲ爲スヘキモノトス

第十九節 國籍ノ得喪

國籍トハ其者ノ属スル國ヲ云フ即チ日本人ノ國籍ハ日本國ニ在ルカ如シ而シテ各人ハ凡テ國籍ヲ有スヘキモノナレトモ時ニ或ハ國籍ヲ有セサル者ナキニアラス仮令ハ其生國ニ本籍ヲ有セサル者ノ如キハ何レノ國ノ國籍ヲモ有セサルモノトス外國々籍ヲ有スル者如何ナル場合ニ日本ノ國籍ヲ取得スルヤト云フニ國籍法ノ規定スル所ニ依レハ外國人カ日本人ノ妻トナリタルトキ又ハ日本人ノ入夫養子トナリタル等ノ場合ニ日本ノ國籍ヲ取得スルモノトス(國籍法第五條參看)而シテ外國人ニシテ國籍ヲ取得シタル者ハ日本ノ國民タル資格ヲ有シ從テ日本人ト同一ノ公權私權ヲ享有シ得ヘキモノトス但國務大臣、陸海軍ノ將校、帝國議會其他ノ重要公職ニ就クヲ得ル者ハ特ニ制限ヲ設ケ歸化人、歸化人ノ子及入夫、又ハ養子ト爲リタル者ニ限ル

日本ノ國籍ヲ有スル者國籍ヲ喪失スル場合ハ如何ト云フニ日本人カ外國人ノ妻ト

新 戶 籍 法

ナリ又ハ入夫若ハク養子ナリタルトキ及自己ノ隨意ニ外國國籍ヲ所得シルタトキハ日本ノ國籍ヲ失フモノトス但男ハ陸海軍ノ現役ニ服スル義務ヲ終ヘサレハ他ノ國籍ヲ所得スルコトヲ得ス

尙國籍ノ得喪ニ關スルコトハ國籍法ニ就テ研究スルヲ要ス但シ該法ハ未タ發布セラレサルモノナルモ本節ヲ研究スルニ付テハ該法ヲ對照スルニアラサレハ了解シ能ハサルヲ以テ國籍法案ニ付キ之ヲ解釋スヘシ

(參照) 國籍法案第五條 外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ所得ス

- 一 日本人ノ妻トナリタルトキ
 - 二 日本人ノ入夫トナリタルトキ
 - 三 日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ
 - 四 日本人ノ養子ト爲リタルトキ
 - 五 歸化ヲ爲シタルトキ
- 全第七條 左ノ條件ヲ具備シタル外國人ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得
- 一 引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト
 - 二 滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト

三 品行端正ナルコト

四 獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アルコト

五 國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ所得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト

全第十八條 日本人ノ女カ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

全第二十條 自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルモノハ日本ノ國籍ヲ失フ

全第二十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第一百五十七條 外國人カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍

ヲ取得スヘキトキハ婚姻又ハ縁組ノ届出人ハ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

入夫婚姻又ハ養子縁組ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル外届書ニ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

外國人カ日本人ノ妻トナリ若クハ入夫ヲ爲シ又ハ養子縁組ニ依リテ日本ノ國籍ヲ

取得シタルトキハ其婚姻又ハ縁組ノ届出ヲ爲スヘキ日本人ヨリ之ヲ届出ツヘキモノトス而シテ其届書ニハ國籍ヲ取得スル者即チ外國人ノ原國籍ヲ記載スルヲ要ス
入夫婚姻又ハ養子縁組ニ依リテ國籍ヲ取得スル場合ハ本節ノ始ニ述ヘタル如ク普通ノ國籍取得者ヨリハ一層特權ヲ得ルコト多キヲ以テ此ノ場合ハ特ニ内務大臣ノ許可ヲ要スルモノトス故ニ其届出ニ付テハ届書ニ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添付スヘキモノトス

第一百五十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキ

トキハ認知者ハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

子ノ母カ外國人ナルトキハ認知者ハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

外國人カ日本人ノ父又ハ母ヨリ認知セラレタルトキハ亦日本ノ國籍ヲ取得スルモノニシテ此認知ノ條件ニ付テハ國籍法第六條ノ規定スル所タリ此場合ハ其認知者タル日本ノ父又ハ母ヨリ届出ツヘキモノニシテ其届書ニハ日本ノ國籍ヲ取得スヘキ子ノ原國籍ヲ記載スヘキモノトス

若シ其子ノ父ノミ日本人ニシテ母カ外國人ナルトキハ認知者タル父カ其母ノ原國籍ヲモ届書ニ記載スヘキモノトス

(參照) 國籍法案第六條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 本國法ニ依リテ未成年者ナルコト
- 二 外國人ノ妻ニ非サルコト
- 三 父母ノ中先認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト
- 四 父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト

第一百五十九條 歸化ヲ爲シタル者ハ歸化ノ許可ヲ受ケタル日ヨ

リ七日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ

之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 歸化人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、住所及ヒ原國籍
- 二 父母ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ國籍
- 三 歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

四 許可ノ年月日

歸化人ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルト

キハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

歸化トハ如何ト云フニ某國人ニシテ他國ニ永住シ其國ノ人情風俗ヲ慕ヒ其國人トナルヘキ希望ヲ生シ其ノ國ノ國籍ヲ取得セントスル者ヲシテ其國籍ヲ得シメ國民

新 戶 籍 法

ト同一ノ特權ヲ附與スルコトヲ云フ而シテ歸化ヲ爲スニ付キ必要ナル條件ハ國籍法第七條(本節ノ始ニ在リ)ニ規定セラレタルヲ以テ外國人ニシテ日本ニ歸化セントスル者ハ該條件ヲ具備シ且内務大臣ノ許可ヲ得ハ歸化スルコトヲ得ルナリ

日本國ニ歸化シタル者ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ本條規定ノ第一ヨリ第四ニ至ル諸件ヲ届書ニ記載シテ届出ツヘキモノトス

歸化ヲ爲シタル者ノ妻ハ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得スヘキモノニシテ又其子ハ其者ノ屬スル本國ノ法律ニ依リテ未成年ナルトキハ父母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得スルモノトス故ニ其妻又ハ子ニシテ父若クハ母ノ歸化ト共ニ國籍ヲ取得スル場合ニハ届書ニ其事由ヲ記載シテ差出スヲ要ス即チ第二項ノ規定スル所ナリ

(參照) 國籍法第十三條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス但夫カ日本ノ國籍ヲ取得シタルコトヲ知リタル後一ヶ月内ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキ之ヲ適用セス

全第十五條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ父又ハ母ト

新 戶 籍 法

共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ハ子ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第一百六十條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者ハ其國籍喪失前ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 國籍喪失ノ原因
- 二 國籍喪失ノ期日ヲ知り得ヘキトキハ其年月日
- 三 法定ノ推定家督相續人アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄
- 四 新ニ取得スヘキ國籍
- 五 届出人ノ妻又ハ子カ共ニ國籍ヲ失フヘキトキハ其妻又ハ子ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

日本人(外國人ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ヲモ含ム)ニシテ日本ノ國籍ヲ失フ場合ハ本節ノ始メニ述ヘタル所ニシテ此場合ハ國籍ヲ喪失スル以前ニ本條規定ノ第一ヨリ第五ニ至ル各事項ヲ届書ニ記載シテ届出ツヘキモノトス

第六十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失前ニ前條ノ届出ヲ爲スコト能ハサリシトキハ國籍喪失後十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ國籍喪失者カ日本ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ之ヲ適用セス

國籍ヲ喪失スヘキ者ノ届出ハ前條ノ規定ニ依リテ喪失以前ニ其届出ヲ要スルモノナレトモ若シ其喪失以前ニ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ハ喪失後十日内ニ届出テサルヘカラス若シ本條ノ規定ニ依リ十日内ニ届出ヲ爲サルトキハ戶籍吏ハ第二

十七條ノ規定ニ依リ管轄區裁判所ノ許可ヲ得テ其登記ヲ爲スヘキモノトス
前項ノ規定ハ國籍喪失者カ日本ニ居住セル者ニノミ適用スヘキ規定ニシテ若シ其者カ外國ニ居住セル者ナルトキハ此規定ニ依ラサルモノトス

本條第二項ノ住所及居所トハ如何ト云フニ住所トハ各人カ永久的主要ナル生活ヲ爲ス場所ヲ云ヒ居所トハ永久的主要ノ生活ニアラスシテ多少ノ時間内居住スル場所ヲ云フモノトス

第六十二條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ其者カ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ官職ヲ帶フル者ナルトキハ國籍喪

失ノ届出人ハ届書ニ所屬長官ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

満十七歳以上ノ男子ニシテ陸海軍ノ現役ニ服スヘキ義務アル者ナルトキハ日本ノ國籍ヲ失ハシメサルモノトス如何トナレハ兵役ハ國家ニ對スルノ義務ニシテ國家ハ此義務ヲ盡サシメタル上ニアラサレハ他國ノ國籍ヲ取得セシメサルモノトス故ニ日本ノ國籍ヲ失フ者カ満十七歳以上ノ男子ナルトキハ前述ノ義務ナキコトヲ証スル爲メ既ニ陸海軍ノ現役ニ役シタルコト又ハ其義務ヲ免カレタル旨ノ証明書ヲ其届書ニ添付シテ戸籍吏ニ差出スヲ要ス
又官職ニ在ル者カ國籍ヲ喪失スル場合ナルトキハ所屬長官ノ許可ヲ得タル上ニアラサレハ喪失スルヲ得サルモノナレハ此場合ハ其届書ニ所屬長官ノ許可書ノ謄本ヲ添付スルヲ要スルナリ
(參照) 國籍法第二十四條 滿十七歳以上ノ男子ハ前五條ノ規定ニ拘ハラズ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタ

新 戸 籍 法

ルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス
現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ所屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

第六十三條 日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ國籍回復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日
- 二 國籍回復前ニ有セシ國籍
- 三 國籍回復ノ許可ヲ得タル年月日
- 四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

新 戸 籍 法

一旦日本ノ國籍ヲ失ヒクル者ニシテ後日其喪失ノ原因消滅セルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ國籍ノ復歸ヲ爲シ得ルモノトス(國籍法第二十五條第二十六條參看)此國籍復歸ノ届出ハ復歸ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ其届書ニ添付シテ戸籍吏ニ届出ツルヲ要ス而シテ其届書ニハ本條規定ノ第一ヨリ第四ニ至ル諸件ヲ記載シテ差出スヲ要スルナリ

(參照)

國籍法第二十五條 婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

全第二十六條 第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但第十六條ニ掲ケタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラス(第二十條第二十一條第十六條ハ本節ノ始メニ在リ)

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更

氏名ノ變更ハ如何ナル場合ニ之ヲ許可スルヤハ本法ニ於テ規定スル所ナシ故ニ從來ノ取扱例ニ依ルヘキハ勿論ナルヘシ而シテ從來ノ取扱方ハ如何ト云フニ氏名ハ

容易ニ之ヲ變更セシメサルモノニシテ就中氏ハ決シテ之ヲ改稱セシメサルモノトス但復姓ノ場合即チ中祖ノ姓ヲ先代ノ姓ニ復スルトキノ如キハ例外トシテ之ヲ許可シ來リタリ然レトモ名ニ在リテハ之ヲ改稱セシメサルトキハ實際不都合ヲ生スルコト尠カラサルヲ以テ一定ノ制限ヲ設ケ其ノ許可ヲ得テ改稱スルコトヲ得タルナリ

改名スルコトヲ得ヘキ場合左ノ如シ

- 一 同氏名ノ者アリタルトキ
- 一 異氏同名、同氏異名タリトモ其音訓稱呼相同シキトキ
- 一 累代ノ通字ヲ襲用スルトキ(分家者本家ノ通字ヲ襲用スル亦同シ)
- 一 商業上ノ都合ニ依リ先代、先々代ノ名ヲ襲用スルトキ
- 一 僧侶得度濟ノ者法名ニ改ムルトキ及還俗ノ場合ニ俗名ニ改ムルトキ
- 一 字体不正ノ名ヲ用エ來リシ者

第六十四條 氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左

ノ諸件ヲ具シ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツル

コトヲ要ス

一 復舊又ハ改稱前ノ氏名

二 復舊シタル氏又ハ改稱シタル名

三 復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日

氏ヲ復舊シタルトキ又ハ名ヲ改稱シタルトキハ十日内ニ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ戸籍吏ニ届出ツヘキモノトス而シテ其届書ニハ本條ノ第一ヨリ第三ニ至ル諸件ヲ具備シテ差出スヲ要ス其各事項ハ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス本條ニ所謂管轄官廳トハ何レノ官廳ナルヤ即チ普通内務ノ行政官廳ニシテ改姓名及族稱ノ變更ヲ許可スヘキ權限アル官廳ヲ云ヒタルモノニシテ地方行政廳及内務

新 戸 籍 法

新 戸 籍 法

省又ハ宮内省ヲ指シタルモノトス然シテ改姓名ニ關スルコトハ地方行政廳ニ於テ取扱ヲ爲シ又族稱ニ關スルコトハ内務省(但華族、皇族等ニ關スルコトハ宮内省ノ所管タリ)ニ於テ取扱ヲ爲スヘキモノナレハ本條及次條ニ規定セル管轄官廳トハ是等ノ官廳ヲ云フナリ

第六十五條 新ニ華族ニ列セラレ又ハ華士族ノ稱ヲ失ヒタル

者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ辭令書又ハ管轄官廳ノ許可書ノ

謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日

前項ノ届出ハ其族稱ニ變更アリタル者カ家族ナルトキハ戸主

ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

士族又ハ平民ニシテ新タニ華族ニ列セラレタルトキ又ハ華族若クハ士族ニシテ其稱ヲ失ヒタル場合ニハ其辭令若クハ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ本條規定ノ第一乃至第三ノ各事項ヲ届書ニ記載シ而シテ其辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添付シテ届出ツルヲ要ス

若シ族稱ノ變更セル者カ戸主ニアラスシテ家族ナルトキ仮令ハ其戸主ト家族ト其稱族ヲ異ニスル場合ニ於テ其家族ノ族稱ニ變更アリタルトキノ如キ場合ハ當該戸主ヨリ届出ツヘキモノトス

第六十六條 前條ノ規定ハ分家、廢絶家再興又ハ處刑ニ因リ

テ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セス但處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ其

旨ヲ報告スルコトヲ要ス

前條ノ族稱變更ニ關スル届出ノ規定ハ其變更ノ辭令又ハ許可ヲ得タル者ニ限ルヘキモノニシテ分家又ハ廢絶家再興ノ爲メニ族稱ヲ失ヒタル場合(族稱ハ分家又ハ廢絶家再興ノ場合ハ凡テ平民トナルコトハ本節ノ始メニ述タリ)及刑事上ノ處刑ヲ受ケタル爲メ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セタルモノトス如何トナレハ分家又ハ廢絶家再興ノ場合ニ在テハ其事實ヲ戸籍吏ニ届出ツルヲ以テ特更ニ族稱變更ニ付キ届出ヲ爲スノ必要ナク又ニ刑處ニ依リテ族稱ノ變更ヲ來シタル場合ハ本條但書ノ規定ニ依リテ其裁判所ヨリ其者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ報告ヲ爲スヘキモノナレハ亦更ニ本人ヨリ届出シムル必要ナキニ依ル

第二十一節 身分登記ノ變更

身分登記ノ變更トハ一旦登記シタル事件ニ付後日ニ至リ身分ノ變更ヲ來タシ從テ其登記ヲ訂正スルノ事柄ヲ云フナリ此變更申請ハ凡テ裁判ニ因リテ許可ヲ得タル

上ニアラサレハ之ヲ爲シ得サルモノニシテ恰モ從來ニ於ケル戸籍ノ變更若クハ訂正ニ付キ所轄官廳ノ許可ヲ要スルト一般ナリ

第六十七條 身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記

ヲ爲シタル戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

身分ニ關スル登記ヲ變更セントスルトキハ其事件ニ付登記ヲ爲シタル戸籍役場ヲ管轄スル區裁判所ニ對シ之カ請求ヲ爲シタル上其許可ヲ得サルヘカラス其戸籍役場ノ管轄ハ裁判所管轄區域ニ依リテ定マルモノナルコトハ第五條ノ下ニ述ヘタル所ナリ而シテ其許可ヲ得タルトキハ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ對シテ其變更ノ申請ヲ爲スヘキモノトス

第六十八條 身分登記變更ノ申請ハ許可ノ裁判カ確定シタル

日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 登記ノ件名及ヒ年月日

二 變更スヘキ事項

身分ニ關スル登記變更ノ申請ハ原登記ノ取扱ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲スヘキコトハト前條ニ述ヘタル所ニシテ此申請ハ許可ノ裁判確定シタルトキヨリ一ケ月内ニ左ノ諸件ヲ具備シ且ツ其裁判ノ謄本ヲ添ヘテ申請スルコトヲ要ス

- 一 原登記ノ件名即チ結婚又ハ養子縁組等ノ事件名及其登記ヲ受ケタル年月日
- 二 變更スヘキ事項假令ハ年齢若クハ其他ノ身分ノ變更ヲ來セルトキ其變更セントスル事項ヲ記載スヘキモノトス

第六十九條 前條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ身分登記ノ變更

ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

民事上ノ訴訟手續ニ依レル裁判判決ニ本ツキ身分ノ變更ヲ來ス場合ニ在リテモ亦前條ノ規定ヲ準用スヘキモノニシテ即チ普通許可ノ裁判ニ本ツク變更ノ場合ト同シク前條ノ手續ニ依リテ申請スルヲ要ス

第五章 戶籍簿

第七十條 戶籍ハ戶籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付
キ之ヲ編製ス

日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス

戶籍ノ編製ハ其戶籍吏ノ管轄内ニ本籍ヲ有スルモノノミニ付キ之ヲ爲スヘキモノニテ即チ寄留者ニ付テハ戶籍ニ編入セサルモノトス
本籍ヲ定メタル者トハ即チ定籍ノ意ニシテ元來其管轄内ニ屬籍セル者ハ勿論他ヨ

新 戶 籍 法

リ入りテ就籍シタル者モ皆戶籍ニ編製スルナリ

本籍ハ各人ノ隨意ニ依リ之ヲ定ムルヲ得ヘキモ日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ本籍ヲ定ムルヲ得ス即チ外國人ノ如キ是レナリ但外國人ト雖トモ歸化其他ノ方法ニ依リ日本ノ國籍ヲ取得シタル場合ハ元ヨリ本籍ヲ定ムルコトヲ得ルナリ

第七十一條 戶籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

戶籍吏ノ管轄地内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル一一個以上ノ區畫
アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ戶籍吏之ヲ定ム

戶籍ノ編綴方ハ地番號ノ順序ニ依ルモノトス從來ニ在テハ或ハ地番ニ依リ編綴スルモノアリ又ハ別ニ戶番號ヲ附シ其順序ニ依リタルモノアリテ一定セス各地ノ便宜ニ委シ來リシカ本條ニ於テハ凡テ地番號ノ順序ニ依ルヘキモノトセラレタレハ

新 戶 籍 法

今後ハ別ニ戸番ヲ設クルノ必要ナキナリ
一管轄内ニ於テ各別ニ地番號ヲ附シタル區畫アルトキ仮令ハ一町村内ニ二ノ部落アリテ其地番號ノ各別ニ相同シキトキ即チ双方ノ部落ニ各一番二番ノ同一ナル地番號ヲ附シアルモノアルトキハ何レカ一方ノ部落ノ分ヲ前キニ編綴スヘキモノナルモ其綴編ノ順序ハ戸籍吏ニ於テ相混セサル様便宜ニ定ムルヲ得ルモノトス

第七十二條 戸籍簿ハ正副二本ヲ設ク

戸籍簿ノ正本ハ之ヲ戸籍役場ニ備ヘ其副本ハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ保存ス

戸籍簿ハ身分登記簿ト同シク正副二通ヲ作ルヲ要ス而シテ其正本ハ之ヲ當該戸籍役場ニ備付シ置クヘキモノニシテ其副本ハ其役場所屬ノ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スヘキモノトス

新 戸 籍 法

新 戸 籍 法

第七十三條 家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部

ヲ抹消シタルモノハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シテ帳簿ト爲シ之ヲ戸籍役場ニ保存ス

前項ノ帳簿ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

戸籍ハ戸主ノ代替アリタル毎ニ其都度新タニ編製スヘキモノニシテ仮令ハ戸主ノ死亡又ハ隱居ニ因リテ家督相續人カ新タニ戸主トナリタル場合ノ如キ又ハ其他ノ事由ニ因リテ戸主ニ異動ヲ生シタルトキハ即チ新タニ其家ノ一ノ戸籍ヲ調製スルヲ要ス而シテ前戸主時代ノ舊戸籍ハ一定ノ朱線ヲ以テ戸籍ノ全部ヲ抹消シ之ヲ戸籍簿ヨリ取除キ新戸籍ヲ其跡ニ挿入シ而シテ舊戸籍ハ別ニ編綴シタル舊戸籍簿ニ編入シ當該戸籍役場ニ保存シ置クヘキモノトス尤舊戸籍ノ保存年限ハ司法大臣ヨリ別ニ定メラル、等ナリ

第七十四條 第十二條乃至第十四條ノ規定ハ戸籍簿竝ニ戸籍

ノ謄本及ヒ抄本ニ之ヲ準用ス

第十二條乃至第十四條ノ規定ハ戸籍簿ニモ之ヲ準用スルモノニシテ即チ戸籍簿ハ天變地異等ノ外ハ猥リニ之ヲ役場外ニ持出スヘカラス(第十二條)又相當手数料ヲ人民ヨリ納付セハ其謄本及抄本ノ送附又ハ交付ヲ爲サ、ルヘカラス(第十三條)又戸籍簿ノ破損滅失ノ場合ニハ司法大臣ヨリ善後ノ方法ニ付キ命令ヲ以テ處分セラ

ルヘキモノトス(第十四條)

第六章 戸籍ノ記載手續

第七十五條 戸籍ハ一戸毎ニ一本ヲ作ル

戸籍ハ一戸ニ付一本ヲ作ルモノ即チ一戸ノ分ツ、ヲ記載シ他家ト混同記入セサルヲ云フ故ニ其家ノ家族ハ凡テ戸主ノ戸籍中ニ編製セラレ其家族ノミヲ記シ餘白ア

ルモ亦他人ヲ混スルコトヲ得ス

第七十六條 戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 戸主、前戸主、及ヒ家族ノ氏名
- 二 戸主ノ族稱及ヒ本籍地但家族ト戸主ト族稱ヲ異ニスル場合ニ於テハ家族ニ付テモ其族稱ヲ記載スルコトヲ要ス
- 三 戸主及ヒ家族出生ノ年月日
- 四 戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付テハ此記載ヲ要セス
- 五 戸主竝ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母ト戸主又ハ家族トノ續柄
- 六 戸主ト前戸主トノ續柄及ヒ家族ト戸主トノ續柄但家族

ノ中他家ヨリ入りテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

七 他家ヨリ入りテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍地、原籍ノ戸主ノ氏名、族稱及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

八 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト他ノ家族トノ續柄
九 戸主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因竝ニ年月日
十 後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名、住所及ヒ後見人

ノ就職竝ニ任務終了ノ年月日

戸籍ニハ左ノ第一ヨリ第十二至ル各事項ヲ記載スヘキモノトス

一 戸主、前戸主、及其家族ノ氏名但家族ノ氏ハ總テ戸主ノ氏ヲ用ユ故ニ他家ヨリ入タル妻ト雖トモ其戸主ノ氏ヲ稱スルモノナリ
二 戸主ノ族稱及本籍地且家族ノ族稱ハ凡テ戸主ノ族稱ヲ稱スルハ通則ナレトモ或ル場合ニ在リテハ其族稱ヲ異ニスルコトアリ此場合ニハ其異ナル家族ノ族稱ヲモ其家族ノ上ニ記載スルヲ要ス

三 戸主及家族ノ出生年月日

四 戸主ト爲リタル原因即チ前戸主ノ隱居又ハ死亡ニ因ルコト又家族ノ者ニ付テハ其家族ト爲リタル原因依令ハ婚姻又ハ養子縁組等ニ依リテ其家ニ入りタルコトヲ記載スヘク且其戸主トナリ及家族トナリタル年月日ヲモ記載スヘキモノトス但其家ニ出生シタル家族ニ付テハ別ニ其原因ヲ記載スル必要ナシ

新 戸 籍 法

新 戸 籍 法

新 戸 籍 法

- 五 戸主及家族ノ父母ノ氏名及其父母ト戸主又ハ家族ノ者トノ間ニ於ケル續柄
- 六 戸主ト前戸主トノ續柄及家族ト其戸主ノ續柄
但他家ヨリ入りテ家族ノ者ノ配偶者トナリタル者又ハ家族ト其者トノ親族
關係ニ依リテ其戸主ト親族關係ヲ生シタル者ニ在リテハ元來戸主トノ親族
關係ヲ有セサル者ナレトモ其家族ニ入りタルカ爲メ親族關係ヲ有スルニ至
レルモノナリ仮令ハ前者ハ家族ノ者ヘ夫又ハ妻ヲ迎ヘタル場合ヲ云ヒ後
ハ家族ノ者カ養子ヲ爲シタル場合ノ如キヲ云フ是等ノ場合ハ其者ト戸主ト
ノ續柄ノ外其續柄アル家族トノ關係ヲモ記載シ置クヲ要ス
- 七 戸主又ハ家族ニシテ他家ヨリ入りタル者ニ付テハ其原籍地、原籍ノ戸主(即
チ實家戸主)ノ氏名、族稱、實家戸主ト其入籍者トノ續柄
- 八 入籍者タル家族カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ其者ト家
族トノ續柄仮令ハ家族ノ者ノ庶子、私生子ノ如キ是レナリ

新 戸 籍 法

- 九 戸主又ハ家族ノ身分ニ變更アリタルトキハ其變更セシ事項及原因ヲ記載シ
且其變更ヲ來セル年月日ヲ記載スヘシ
 - 十 後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名、住所及就職年月日又後見任務ノ終了
シタル者ニ付テハ其終了ノ年月日
- 第一百七十七條 戸主及ヒ家族ノ氏名ヲ戸籍ニ記載スルニハ左ノ

順序ニ依ル

- 第一 戸主
- 第二 戸主ノ直系尊屬
- 第三 戸主ノ配偶者
- 第四 戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者
- 第五 戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

第六 戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス
直系卑屬、直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順序ヲ定ム

前二項ノ規定ハ戸主ノ親族ニ非サル者ノ記載ニ之ヲ準用ス

戸主及家族ノ者ヲ戸籍ヘ記載スルニ當リ其記載スヘキ順序ハ左ノ如シ

第一ニ戸主

第二ニ戸主ノ直系尊屬即チ父母以上ノ尊親屬

第三ニ戸主ノ配偶者即妻、女戸主ノ場合ハ夫

第四ニ戸主ノ直系卑屬即チ子、孫以下及其配偶者

第五ニ戸主ノ傍系親即チ兄弟、姉妹等及其配偶者

第六ニ戸主ノ親族ニアラサル者即チ六親等以外ノ者

直系尊屬數人アルトキハ親等ノ最モ遠キ者ヨリ先ニ記載シ即チ父母、祖父母等アル場合ニハ祖父母ヲ先ニシ父母ヲ其後ニ記載スルナリ又直系卑屬及傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ最モ近キ者ヨリ先キニ記載スヘキモノトス

直系尊屬、直系卑屬及傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ相同シキ者アルトキハ親族間ニ於ケル順位ニ依リ記載スヘク又其親族間ノ順位ノ同シキ者ニ付テハ出生ノ前後ニ依リテ其順序ヲ定ムルモノトス

前二項ノ規定ハ戸主ノ親族ニアラサル者ニ付テモ之ヲ準用スルヲ以テ右ノ順序ニ依リテ記載スヘキ者トス

第一百七十八條 戸籍吏カ身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出

ヲ受理シタルトキハ次條以下ノ規定ニ從ヒテ戸籍ノ記載ヲ爲
スコトヲ要ス

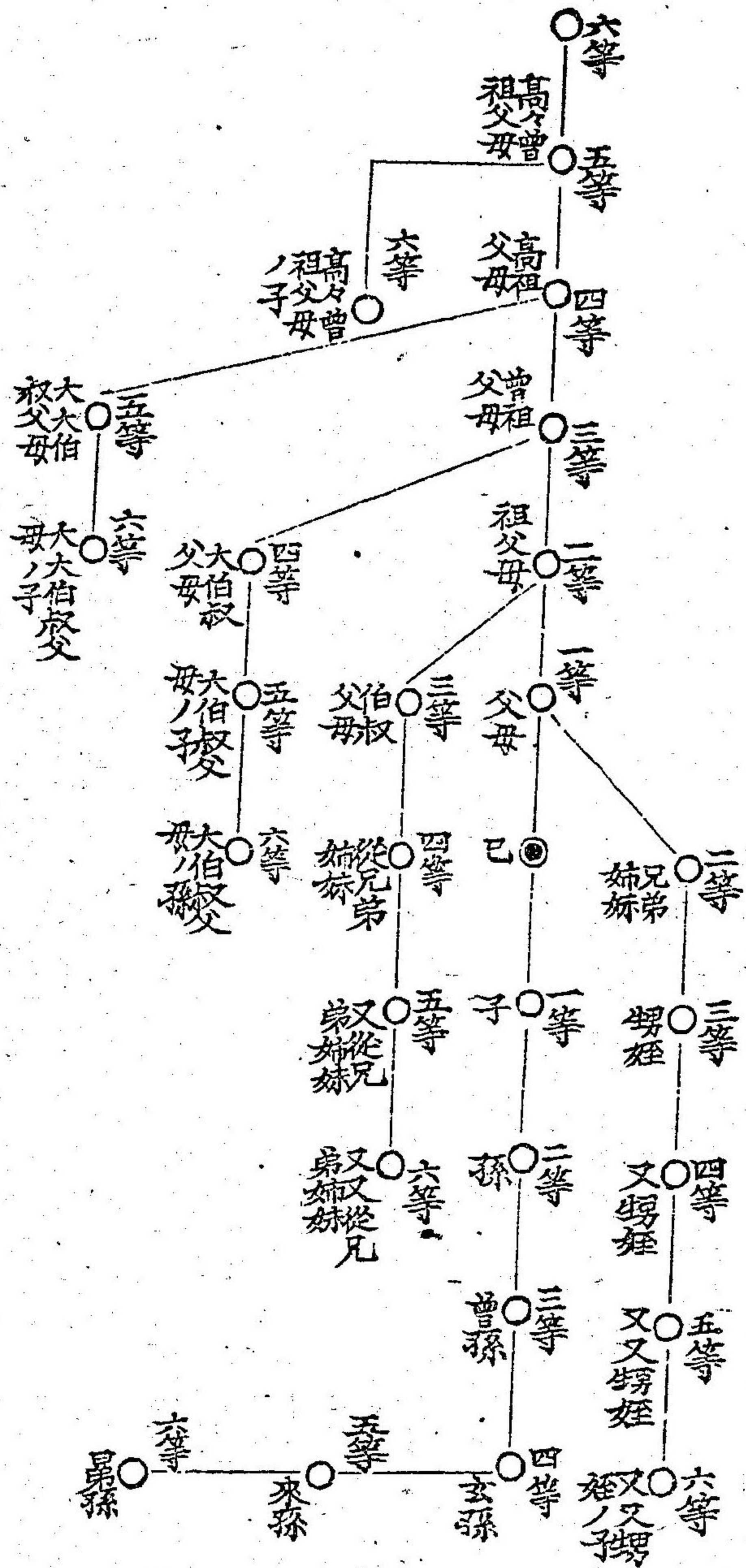
戸籍吏ハ第四章第二節以下第二十一節ニ至ル身分ニ關スル届出ヲ受ケ其登記ヲ爲
シタルトキ及ヒ第七章ニ規定セル戸籍ノ届出ヲ受理シタルトキハ次條以下第九
十四條ノ規定ニ依リ其事件ヲ戸籍簿ニ記載スヘキモノトス但其戸籍吏ノ管轄内ニ
本籍ヲ有セルモノノミニ限ルハ勿論ナリトス

第九十七條 家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルト

キハ其登記及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ基
キテ新戸主ノ戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍

(参照) 第六章 戸籍ノ記載手續
六親等内親族ノ圖



ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消シ且其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス
 胎兒カ家督相續人ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

家督相續ニ因リテ戸主ノ更替ヲ來セル場合又ハ家督相續權ヲ侵害セラレタル者裁判ヲ決ニ因リ其相續權ヲ回復シテ戸主ノ更替ヲ來セルトキハ前戸主又ハ前戸主ノ名義ヲ有セシ者(相續權ヲ侵害シ戸主ト爲リタル者ハ正當ノ戸主ニアラスシテ一時戸主ノ名義ヲ侵セル者)ノ戸籍ニ基キ新戸主ノ戸籍ヲ新ニ編製スヘキモノトス前項ニ依リテ新戸籍ヲ編製シタルトキハ舊戸主又ハ舊戸主ノ名義ヲ有セル者(即

新 戸 籍 法

新 戸 籍 法

侵害者)ノ戸籍ニハ代替ノ事由ヲ記載シ之ヲ朱線ニテ抹消シ且新タニ編製シタル戸籍ト其抹消シタル戸籍トニ戸籍吏ノ職印ヲ以テ契印ヲ爲シ置クヘシ而シテ其抹消シタル戸籍ハ第七十三條ノ規定ニ依リ之ヲ別冊ニ編製シ當該役場ニ保存シ置クヘキモノトス

胎兒カ相續人タルヲ得ルコトハ已ニ述ヘタル所ナリ而シテ此場合ノ戸籍ハ如何ニ記載ヲ爲スヘキヤト云フニ本條第三項ノ規定ニ依リ取扱ヲ爲スヘキモノニシテ即チ其胎兒ノ出生ニ至ル迄ハ前二項ノ手續ヲ爲サス只前戸籍ノ戸主中戸主ノ部分ノミヲ抹消シ而シテ家督相續人ハ胎兒ナル旨ヲ明記シ置クヘキモノトス

第一百八十條 分家、廢絶家再興其他新ニ家ヲ立ツヘキ事件ノ登記ヲ爲シ又ハ轉籍若クハ無籍戸主ノ就籍ノ届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉籍届書ノ副本

新 戸 籍 法

ハ遲滞ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製スルニハ第七十六條ニ掲ケ
タル事項ノ外各場合ニ付キ特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要
ス

分家又ハ廢絶家再興其他ノ事由ニ因リ一家ヲ立テタルモノハ其旨ヲ届出テ登記ヲ
受クヘキコトハ第四章ノ下ニ述ヘタル所ナリ又戸籍吏ノ管轄内ニ轉籍若クハ就籍
(就籍トハ無籍者ノ定籍スルヲ云フ)ノ届出アリタルトキハ亦戸籍吏ノ管轄内ニ一
家ヲ新立スルモノナレハ分家又ハ廢絶家ノ場合ニ在リテハ其登記ニ本キ又轉籍若
クハ就籍ノ場合ニ在リテハ其届書ニ本キ各々ノ戸籍ヲ編製スヘキモノトス而シ
テ其轉籍届書ノ副本ハ直ニ之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送附スルヲ要ス
前項ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製スル場合ニハ第七十六條ニ規定セル各事項ノ外

新 戸 籍 法

分家、廢絶家再興若クハ就籍、轉籍等ノ各場合ニ付特殊ノ事由即チ分家セルコト廢
絶家ヲ再興セルコト等ノ事由ヲ戸籍簿ニ記載シ置クヘキモノトス

第八十一條 復籍拒絕ノ登記ヲ爲シタルトキハ復籍ヲ拒絕シ
タル者ノ戸籍ニ登記ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

復籍拒絕ノ場合ハ已ニ第五十條ニ述ヘタル所ナリ而シテ戸籍吏ハ其届出ヲ受理
シ身分登記簿ノ登記ヲ了セルトキハ其拒絕ヲ爲シタル者ノ戸籍簿中復籍ヲ拒絕セ
ラレタル者ノ戸籍ヘ其事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スヘキモノトス即チ除籍ノ手續ヲ
爲スモノナリ

第八十二條 廢絶家ノ登記ヲ爲シタルトキハ最終戸主ノ戸籍
ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

廢絶家ノ場合ハ其家ノ廢絶スルモノナレハ其最終戸主ノ戸籍ニ廢家又ハ絶家ヲ爲

シタル旨ヲ記載シ其戸籍全部ヲ抹消スヘキモノトス而シテ其抹消シタル戸籍ハ第百六十八條ノ手續ニ依リ別冊トシテ編綴シ置クヲ要ス

第八十三條 單身戸主ノ死亡又ハ失踪ノ登記ヲ爲シタル場合

ニ於テ其家ニ家督相續人ナキコト分明ナルトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡者又ハ失踪者ノ戸籍ニ絶家ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

單身ノ戸主ニシテ死亡シタルトキ又ハ失踪ノ宣告アリタルトキニ其家ニ家督相續人ナキトキハ玆ニ絶家ト爲ルモノトス故ニ戸籍吏ニシテ其死亡若クハ失踪ノ登記ヲ爲シタル場合ニ其家ニ家督相續人ナキコトノ分明ナルトキハ其役場所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其單身戸主ノ戸籍ニ絶家トナレル原因及絶家ノ年月

新 戸 籍 法

新

戸

籍

法

日ヲ記載シテ前條ノ手續ニ依リ戸籍全部ヲ抹消スヘキモノトス蓋シ此場合ニハ他ニ絶家ノ届出ヲ爲スヘキ者ナキヲ以テ戸籍吏ヨリ裁判所ニ申請シテ抹消スルコトトセラレタルナリ

第八十四條 戸籍吏ノ管轄地内ニ於ケル本籍地變更ノ届出ヲ

受理シタルトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シ舊本籍地ニ關スル記載

ヲ抹消シ新本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

戸籍吏ノ管轄内ニ本籍ヲ有スル者其管轄内ニ於テ本籍ヲ變更セントスル場合ハ第百九十六條ノ規定ニ依リ戸籍吏ニ届出ツヘキモノトス戸籍吏此届出ヲ受理シタルトキハ其事由ヲ該戸籍ニ記載シ而シテ舊本籍地ノ記事ノミヲ抹消シ更ニ變更セントスル新本籍ヲ記載スヘキモノトス但本條ハ戸籍吏ノ管轄内ニ於ケル變更ノ手續ニシテ其管轄外ニ變更スルトキハ第八十七條ノ規定ニ依リ其戸籍ノ全部ヲ抹消スヘキモノトス

新 戸 籍 法

第百八十五條 前六條ノ場合ヲ除ク外身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キ第七十六條ニ掲ケタル事項ヲ戸籍ニ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ第百八十條第二項ノ規定ニ依リテ戸籍ニ記載シタル事項ノ變更アルトキハ其變更ヲ記載スルコトヲ要ス

前六條ニ規定シタル場合ノ外第四章各節ニ於ケル身分ニ關スル登記ヲ爲シタルトキ及第七節ニ規定セル戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ其登記及届出ノ各事件ニ基キ第七十六條ニ規定セル事項ヲ戸籍ニ記載スヘキモノトス

分家又ハ廢絶家再興等ニ依リテ一家ヲ新立シタル場合ニ在テハ第百七十六條ニ規定セル各事項ノ外尙其事件ニ付特殊ノ事由ヲ記載スヘキモノナルコトハ第百八十四條第二項ノ規定スル所ナリ然シテ其特殊ノ事由トシテ記載セル分家又ハ廢絶家再

新 戸 籍 法

興等ノ記事ニ變更ヲ生シタルトキハ亦其變更ニ係ル事項ヲ記載スヘキモノトス

第百八十六條 戸籍ヲ編製シタル後一人又ハ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキハ第百七十七條ノ順序ニ拘ハラヌ戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ得

戸籍ヲ編製シタル後ニ至リ一人又ハ數人ヲ其戸主ノ家族トシテ引取入籍スル場合ハ第百七十七條規定ノ順序ニ依ル能ハサルヲ以テ其者ノ氏名ハ現在戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スヘキモノトス故ニ其戸主ノ尊親屬ヲ戸籍ニ編入スルトキト雖トモ其戸籍ノ最終ヘ記入ヲ爲スモノトス

第百八十七條 一戸ノ全員又ハ一戸ノ内一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

一戸ノ内其戸主及家族トモ全員ヲ除籍スル場合ノ生シタルトキ(仮令ハ全家他管轄内へ轉籍スルトキノ如キヲ云フ)ハ廢絶家等ノ場合ニ於ケル手續ト同シク其戸籍ノ全部ヲ抹消スヘキモノニシテ又全員ヲ除クニアラスシテ其一人又ハ數人ヲ除籍スル場合(仮令ハ家族ノ者カ分家ヲ爲ストキノ如キヲ云フ)ニ在リテハ其除籍スヘキ者ノミヲ抹消スルモノトス而シテ其抹消ヲ爲ストキニハ全員又ハ一人若クハ數人ヲ除クヘキ事由ヲ記載シ置クヘシ但本條ハ單ニ除籍ヲ爲スノ手續ヲ定メタルモノニシテ其取扱方ニ付テハ第百八十九條ノ規定ニ依ルヘキハ勿論ナリ

第百八十八條 入籍ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ入籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ヲ送付スルト同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ

新 戸 籍 法

通知スルコトヲ要ス

戸籍吏身分ニ關スル届書其他ノ書類(第十五條ニ規定セル書類ヲ云フ)ヲ受ケ身分ノ登記ヲ爲シタルトキ又ハ第七節ノ規定セル戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタル場合ニ於テ其結果戸籍吏ノ管轄内ニ本籍ヲ轉屬スル者アルトキハ即チ入籍ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス而シテ此場合ニ在リテハ第三十三條乃至第三十六條ノ規定ニ依リ其受ケタル届書又ハ其他ノ書類ヲ其者ノ屬セル舊管轄ノ戸籍吏ニ送附シ同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ其戸籍吏ニ通知スヘキモノトス

本條ノ規定ニ依リ入籍ノ通知ヲ爲スハ從來ノ取扱例ニ於ケル入籍報知書ト同一ナリ但從來ニ在テハ原籍地役場ヨリ送籍狀ヲ受ケ然シテ入籍ヲ爲スヘキ手續ナリシモ本法ニ於テハ別ニ送籍ヲ要セスシテ只届書又ハ其他ノ書類ヲ受理シタルトキハ直ニ入籍ノ取扱ヲ爲スヘキモノナレハ此点ニ於テハ大ニ差異アルナリ

第百八十九條 除籍ノ手續ヲ爲スヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘ

新 戸 籍 法

新 戸 籍 法

キ者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル
 モノナルトキハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知
 ナ受ケタル後其通知ノ發送及ヒ受附ノ年月日ヲ戸籍ニ記載シ
 テ除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

轉籍ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事
 項ノ外轉籍地及ヒ轉籍ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ除籍ノ取扱方ヲ定メタルモノナリ即チ除籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ其戸籍吏
 ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄内ヘ轉屬スル場合ハ轉屬地ノ戸籍吏ヨリ入籍ノ通知
 ヲ受ケタル後ニアラサレハ除籍スルコトヲ得ス而シテ其轉屬地ノ戸籍吏ヨリ入籍
 ノ通知アリタル場合ニ在テハ其通知ヲ達送セル年月日及受付タル年月日ヲ戸籍ニ
 記載シテ始メテ除籍ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

新 戸 籍 法

入籍及除籍ノ取扱方ハ(前條及本條ノ規定)從來ノ取扱例ト異ナル所ナシ從來ニ在
 リテモ除籍ヲ爲スノ手續ハ入籍地役場ノ入籍報知書ヲ得テ之ヲ爲スヘキモノナリ
 シカ本法ニ於テモ除籍ハ入籍ノ通知ヲ得タル上ニアラサレハ爲シ得サルコト、セ
 リ蓋シ入籍ノ通知ニ接セサル以前ニ除籍シ得ルトキハ手續上ノ疎漏其他ノ事由ヨ
 リシテ往々入籍ヲ遺漏スルコトナキニアラス其結果脱籍者ヲ生ニ至ルヘキヲ以テ
 除籍ハ必ス入籍ノ通知ヲ得テ後之ヲ爲スヘキモノトセラレタルナリ

第一百九十條 身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出ニ基キテ戸籍ノ記
 載ヲ爲ス場合ニ於テハ前十一條ニ規定シタル事項ノ外身分ニ
 關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ノ受附年月日ヲ
 記載スルコトヲ要ス

前十一條ニ於テ身分ニ關スル登記又ハ戸籍ニ關スル届出ニ本キ戸籍ノ記載ヲ爲ス

ヘキ事項ヲ規定セリ尙右規定ノ外戸籍ノ記載ヲ爲ス場合ニハ身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ノ受付年月日ヲ記載シ置クヘキモノトス

第百九十一條 第十八條、第二十九條及ヒ第三十一條ノ規定ハ

戸籍ノ記載ニ之ヲ準用ス

第十八條ハ届出其他ノ書類ヲ受ケタルトキ其書類ニ受付ノ番號及年月日ヲ記入シ直ニ登記ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ定メタルモノナリ

第二十九條ハ登記ノ記載方ヲ定メタルモノニシテ即チ文字ハ字畫ヲ明瞭ニ記載スヘク數字ハ一二三ヲ用ヘス壹貳參拾ノ字ヲ用ユヘク又誤記等ノ場合ニ於ケル訂正改竄ノ方法ヲ規定シタルモノナリ

第三十一條ハ登記ヲ了シタルトキ其文末ニ戸籍吏ノ認印ヲ爲スヘキコトヲ定メタルモノナリ

右三ヶ條ノ規定ハ身分登記ノ場合ニ於ケル手續ヲ定タルモノナルモ尙戸籍ノ記載

新 戸 籍 法

方ニ付テモ右ノ手續ヲ準用スルモノナレハ凡テ右ノ規定ニ從ヒ記載セサルヘカラス

第百九十二條 戸籍用紙中ノ一部分ヲ用井盡シタルトキハ掛紙

ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ得

掛紙ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契

印ヲ爲スコトヲ要ス

戸籍用紙中ノ一部分ニシテ其記入事項ノ多キ爲メ一定ノ欄内ニ記入シ能ハサルトキハ之ニ掛紙ヲ爲シ之ニ記入スルコトヲ得ルナリ但此掛紙ヲ用ユル場合ハ其戸籍用紙ノ一部分ヲ用キ盡シ止ムヲ得サルトキノミ之ヲ爲スヘキモノナリ
前項ノ掛紙ヲ用ヘ記入シタルトキハ戸籍吏ハ其掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲シ置クヘシ

第百九十三條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタ

新 戸 籍 法

ルトキハ戸籍ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ改正シタルモノト看做ス

行政區畫ノ變更ニ依リ市町村ノ區域ニ變動アリタルトキ又ハ土地ノ名稱若クハ地番號ノ變更ヲ生シタルトキハ戸籍ニ記載セル區畫、名稱、番號ハ當然改正セルモノトスルヲ以テ別ニ届出其他ノ手續ヲ要セス戸籍吏ニ於テ之ヲ訂正スルヲ要ス

第百九十四條 第百七十九條及ヒ第百八十條ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製シタルトキハ戸籍吏ハ遲滯ナク其副本ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シ新タニ戸籍ヲ編製シタル場合(第百七十九條)分家、廢家再興其他ノ事由ニ因リ一家ヲ新立シ及轉籍就籍ノ届出ニ依リ新タニ戸籍ヲ編製シタルトキ(第百八十條)ニ在リテハ戸籍吏ハ直チニ其副本ヲ作り之

ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送附スヘキモノトス

第七章 戸籍ニ關スル届出

第百九十五條 戸籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ轉セント欲スルトキハ戸主ヨリ左ノ諸件ヲ具シ戸籍ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ轉籍地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

- 一 轉籍者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 二 原籍地及ヒ轉籍地

前項ノ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

本條ハ戸籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ移轉スル場合ノ届出手續ヲ定メタルモノニシテ即チ其届書ニハ轉籍ヲ爲スヘキ者ノ氏名、出生年月日、職業并ニ原籍地及轉籍地ヲ記載シ當該主ヨリ新タニ轉籍スヘキ戸籍吏ニ届出ツヘキモノトス

右ノ届書ハ正副二通ヲ要ス即チ第百八十條ノ規定ニ依リ其副本ハ之ヲ舊管轄地ノ戸籍吏ニ送附スルノ必要アルニ由ル

第百九十六條 戸籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍地ヲ變更セント欲スルトキハ戸主ヨリ原籍地及ヒ新本籍地ヲ具シテ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

本條ハ管轄町村内ニ於テ本籍地ヲ變更スル場合ノ届出手續ヲ定メタルモノニシテ此場合ハ當該戸主ヨリ原籍地及新本籍地ヲ其届書ニ記載シテ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツヘキモノトス但本條ノ原籍地及新本籍地トハ假令ハ大字ヨリ大字ヘ移轉スル場合ナルトキハ舊住所ノ大字及地番ハ原籍地ニシテ移轉スル大字、地番ハ新本籍地タリ

第百九十七條 届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セス又ハ

新 戸 籍 法

複本籍ヲ有スル者ハ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲サントスル戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ無籍者ノ就籍及重籍者ノ除籍ニ關スル規定ナリ無籍者トハ何レノ地ニモ本籍ヲ有セサル者ヲ云ヒ重籍者トハ二重ノ本籍ヲ有スル者ヲ云フ
届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リテ本籍ヲ有セス又ハ二重ノ本籍ヲ有スル者アルトキハ其就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲スヘキモノトス而シテ此届出ハ其ノ就籍又ハ除籍ニ付キ戸籍役場所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得タル上ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十八條 就籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ就籍スヘキ地ノ戸

籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 就籍スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日時、職業及ヒ就籍スヘキ地

二 就籍スヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ其者ト父母トノ續柄

三 本籍ヲ有セザリシ原因

四 就籍スヘキ者カ前ニ本籍ヲ有セシトキハ其舊本籍地

五 就籍スヘキ者カ戸主ナルトキハ其旨

六 就籍スヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ其者ト戸主トノ續柄

七 就籍スヘキ者カ戸主及ヒ家族ナルトキハ戸主、家族ノ

新 戸 籍 法

別及ヒ家族ト戸主トノ續柄

八 就籍スヘキ者カ他家ヨリ入りテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ナルトキハ其原籍地、原籍ノ戸主ノ氏名、族稱及ヒ其戸主ト就籍スヘキ者トノ續柄

前項第六號及ヒ第七號ノ場合ニ於テ就籍スヘキ家族カ他家ヨリ入りテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者ナルトキ又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ届書ニ其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載シ若シ他ノ家族トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ其者ト他ノ家族トノ續柄ノミヲ記載スルコトヲ要ス

新 戸 籍 法

新 戸 籍 法

無籍者就籍ノ届出ハ裁判所ノ許可ヲ要スルハ前條ニ述ヘタル如シ而シテ其届出ハ許可ノ裁判確定シタル日ヨリ十日内ニ本條規定ノ第一ヨリ第十二ニ至ル諸件ヲ具備シ且ツ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ就籍スヘキ地ノ戸籍吏ニ届出ツヘキモノトス但右届出ニ具備スヘキ各事項ハ別ニ説明ヲ要セサルヲ以テ條文ニ就テ知得スルヲ要ス

本條第六號第七號ニ規定セル就籍スヘキ者カ家族ナルトキ其戸主トノ續柄ヲ記載スヘキ場合ニ其家族カ他ノ家族ノ者ノ配偶者ナルトキ又ハ家族トノ關係ニ因リテ戸主トノ親族關係ヲ生セル者ナルトキハ其者ト戸主トノ續柄ノ外其者ト他ノ家族トノ續柄ヲモ記載スヘク又其者カ單ニ家族トノミ親族關係ヲ有シ戸主トノ親族關係ナキモノナルトキハ其家族トノ續柄ノミヲ記載スヘキモノトス但本條第二項ハ第七十六條第六號及第八號ノ場合ト同一ノ規定ナリ

第九十九條 除籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ除籍スヘキ地ノ戸

新 戸 籍 法

籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 除籍スヘキ者ノ氏名、族稱、職業、本籍地及ヒ複本籍地
- 二 複本籍ヲ有セル原因
- 三 除籍スヘキ者カ本籍ト複本籍トニ於テ身分ヲ異ニスルトキハ本籍竝ニ複本籍ニ於ケル身分及ヒ其身分ノ異ナル

原因

重籍者ハ前條ノ場合ト同シク裁判所ノ許可ヲ得テ除籍ノ届出ヲ爲スヲ要ス其届出ハ裁判ノ確定シタル日ヨリ十日内ニ本條規定ノ第一ヨリ第三ニ至ル各事項ヲ具備シ且ツ裁判ノ謄本ヲ添付シテ之ヲ爲スヘキモノトス

本條ノ届出事項中第一第二ニ付テハ別ニ説明ヲ要セサルモ第三ノ本籍ト複本籍トニ於テ身分ノ異ナルトキトハ如何ト云フニ仮令ハ甲ノ本籍地ニ在リテハ某ノ嫡出

子若クハ庶子、私生子等ノ身分ヲ有セルニ乙ノ複本籍地ニ在リテハ養子或ハ入夫等ノ身分ヲ有シ彼是レ異ナルコトナキニシモアラス此場合ニハ其身分及異ナリタル事由ヲ届書ニ記載スルヲ要ス

第二百條 就籍又ハ除籍スヘキ者カ家族ナルトキ又ハ戸主及ヒ

家族ナルトキハ前二條ノ届出ハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前二條ニ規定セル就籍又ハ除籍ノ届出ハ何人ヨリ之ヲ爲スヘキヤト云フニ其就籍又ハ除籍スヘキ者カ或ル戸主ノ家族ナルトキ又ハ戸主ト家族ト同時ニ就、除籍ヲ爲スヘキ場合ニハ凡テ其戸主ヨリ届出ヲ爲スヘキモノトス而シテ無籍者ニシテ他ノ家族ニアラサルトキハ其者ヨリ届出ツルハ勿論ナリ

第二百一條 第九十八條及ヒ第九十九條ノ規定ハ確定判決

ニ依リテ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

新 戸 籍 法

第九十八條及第九十九條ハ無籍者ノ就籍及重籍者ノ除籍届出手續並ニ其事項等ヲ規定セルモノトス右二條ノ規定ハ確定判決即チ民事訴訟ノ確定判決ニ因リテ就除籍ヲ爲スヘキ場合ニモ準用スヘキモノナリ即チ此場合ニ在リテモ右二條ノ規定ニ從ヒ届出ヲ爲スヲ要ス

第二百二條 第四十三條、第四十四條、第四十六條、第四十九條

乃至第五十二條、第五十四條、第五十五條、第五十八條及ヒ第六十二條乃至第六十六條ノ規定ハ本章ノ届出ニ之ヲ準用ス

本條ハ戸籍ノ届出ニ關シ準用スヘキ條項ヲ定メタルモノナレハ各條項ニ付知得シ置クヲ要ス

第八章 抗告

抗告トハ如何ナルモノヲ云フヤ即チ戸籍吏ノ處分ニ對シ之ヲ不當トシテ裁判所ニ

決定ヲ仰クノ方法ヲ云フ此抗告ハ民事訴訟上ニ於ケル上訴ト同性質ノモノニシテ之ニ對スル裁判所ノ處分ハ之ヲ決定ト云フナリ而シテ裁判所ニ於テ其抗告ヲ理由アリト決定シタルトキハ此決定ニ依リ戶籍吏ノ不當處分ヲ變更セシメ正當ノ取扱ヲ受クルヲ得ルモノトス

第二百三條 身分登記又ハ戶籍ニ關スル事件ニ付キ戶籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ身分登記又ハ戶籍ニ關スル事件ニシテ戶籍吏ノ爲シタル處分ヲ不當ト認メタルトキニ之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ此抗告ハ其戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ爲スヘキモノナリ而シテ抗告ハ何人ヨリ申立ツヘキモノナルヤト云フニ即チ身分登記又ハ戶籍ニ關スル届出人又ハ申請人ヨリ之ヲ爲スモノナリ

新 戶 籍 法

新 戶 籍 法

不當ノ處分トハ如何ト云フニ戶籍吏カ正當手續ヲ爲サス又ハ法律ニ違反シテ爲シタル處分ヲ云フ即チ本法第十三條ニ規定セル如キ各人ハ相當手数料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付若クハ交付ヲ請求シタルトキ戶籍吏ニ於テ理由ナクシテ之ヲ拒ミタル場合又ハ之ヲ拒ムヘキ理由アルトキニハ書面ヲ以テ請求者ニ告知スヘキ規定ナルニ之ヲ爲サレリシ場合其他本法中届出人又ハ申請人ニ對シ權利トシテ爲シ得ヘキ規定シ違反シテ處分ヲ爲シタル場合等凡テ不當ノ處分ト云フコトヲ得ヘク從テ其届出人又ハ申請人ハ其處分ニ對シテ抗告ヲ爲シ得ルナリ

第二百四條 抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス
抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ其他ノ關係書類ヲ添フルコトヲ要ス

抗告ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘキヤト云フニ即チ前條ニ述ヘタル區裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲スヘキモノトス而シテ其抗告狀ニハ抗告ノ證據物トシ

テ其事件ノ届書又ハ申請書其他ノ關係書類ヲ添付シテ之ヲ爲スヲ要ス
本條ニハ抗告狀ニ記載スヘキ事項ヲ定メサルヲ以テ隨意ナルモ此抗告狀ニハ抗告
ヲ爲スヘキ事件ノ事實及抗告ノ理由等ヲ記載スヘキハ勿論ナリ

第二百五條 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ戶籍
吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

抗告申立人ヨリ其抗告狀ヲ裁判所ニ差出シタルトキハ裁判所ニ於テハ抗告狀其他
附屬書類ヲ其事件ノ處分ヲ爲シタル戶籍吏ニ送附シテ其意見ヲ確ムルモノトス蓋
シ其戶籍吏ニ意見ヲ確ムルハ該處分ニ付キ戶籍吏ノ反省ヲ求ムル爲メニシテ一ハ
其意見ヲ徵シ裁判所ニ於テ彼是對照調査ヲ爲シ決定ヲ爲スノ必要アルニ由ルナリ
第二百六條 戶籍吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變
更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル
書類ヲ五日內ニ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

戶籍吏ハ前條ノ規定ニ依リ裁判所ヨリノ意見ヲ求メラレタルトキハ自己ノ爲シタ
ル處分ニ付キ果シテ正當ナルヤ否ヤヲ調査シ若シ自己ノ爲シタル處分カ不當ニシ
テ抗告人ノ申立ハ理由アルモノト認メタルトキハ前ノ處分ヲ變更シ抗告人申立ノ
通り更ニ相當手續ヲ爲サトルヘカラス而シテ戶籍吏ニ於テ前ノ處分ヲ變更シタル
トキハ其旨ヲ裁判所及抗告人ニ通知スルヲ要ス此場合ニ在リテハ裁判所ハ其抗告
ニ付キ別ニ決定ヲ爲スノ必要ナク其旨ヲ戶籍吏ニ示シテ却下スヘキモノナリ
又戶籍吏ニシテ其抗告ヲ理由ナキモノト信シタルトキハ之レニ正當ノ意見ヲ附シ
テ其書類ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ意見ヲ求メラレタル裁判所ニ該書類ヲ返還ス
ヘキモノトス

第二百七條 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ

其理由アリトスルトキハ戸籍吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ之ヲ戸籍吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ニ依リ戸籍吏ノ意見ヲ附シ裁判所ニ返還シタルトキハ裁判所ハ其抗告ニ付キ決定ヲ與フルナリ而シテ裁判所ニ於テハ其抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ之レヲ却下スヘク又其抗告カ正當ノ理由アリテ戸籍吏ノ處分ヲ不當ト認ムルトキハ裁判ヲ以テ決定ヲ與ヘ然シテ其戸籍ニ正當ノ處分ヲ爲スヘキコトヲ命合スルナリ

前項ニ述ヘタル如ク抗告ヲ理由ナシトシテ却下スルトキ又ハ理由アリトシテ戸籍吏ニ正當ノ處分ヲ命スル場合ニハ凡テ決定ヲ以テ之ヲ爲スモノトス決定トハ抗告

ニ對スル裁判處分ヲ云フナリ此決定ハ之ヲ戸籍吏及抗告人双方ニ送達スルモノトス但送達ハ普通民事裁判ノ送達ト同シク執達吏ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナリ

第二百八條 裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シルタ裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ニ對シテ爲シタル裁判所ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲シ得ヘキヤ否ヤト云フニ此場合ハ通常ハ手續其他ノ不當ヲ理由トシテ之ニ抗告ヲ爲シ得サルモノトス但其決定ニシテ明カニ法律ニ違反シタル決定ナルキハ之ヲ理由トシテ更ニ抗告ヲ爲シ得ヘシ此場合ニ於ケル抗告ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スヘキモノナレハ其抗告ハ決定ヲ爲シタル區裁判所ヲ管轄スル上級裁判所(即ち地方裁判所)ニ之ヲ爲スヘク又其手續ニ付テモ凡テ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノトス

第二百九條 抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

抗告ハ一ノ訴訟行爲ナレハ其費用ヲ要スル勿論ナリ此費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用スルモノナリ即チ同法第二十六條ノ規定ニ依レハ特ニ負擔者ヲ定メタル場合ニアラサレハ凡テ其事件ノ申立人ノ負擔トスルモノナレハ身分登記及戸籍ニ關スル事件ノ抗告費用ハ凡テ抗告人ノ負擔タルヘキモノト考フルナリ

第九章 罰則

第二百十條 本法ノ規定ニ依リ期限内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ拾圓以下ノ過料ニ處セラル

本法各條項ニ於テ規定セル相當期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲スヘキ事件ヲ届出人、申請人ノ過誤若クハ怠慢ヨリ之ヲ爲ササリシトキハ本條ノ規定ニ依リ貳拾圓以下ノ過料ニ處セラル、モノトス仮令ハ出生、死亡其他第四章各節ノ規定セル相當期

間アル各事件ヲ云フナリ但裁判所ハ貳拾圓以下ノ範圍内ニ於テ各事件ニ付適宜其額ヲ定メテ之ヲ科スルモノナリ

過料トハ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ニ對スル制裁ニシテ即チ其者ニ科スル處ノ過怠金ナリ而シテ刑法其他ノ法律ニ定メタル罰金若クハ科料トハ大ニ性質ヲ異ニスルモノニシテ是等ハ一ノ刑罰ナレトモ過料ハ單ニ行政上ノ懲悔ノ性質ヲ帶ヘル制裁ニ過キス故ニ其効果ニ於テモ大ニ差異アルモノトス今其重ナル差異ヲ擧クレハ即チ左ノ如シ

- 一 罰金又ハ科料ハ刑罰ナルヲ以テ刑法其他ノ法律ニ規定セル再犯加重ノ原因トナリ又ハ凡テ刑罰ノ効力ト結果ヲ同フスルモノナレトモ本則ノ過料ハ刑罰ニアラサルヲ以テ其効果ヲ生スルコトナシ
- 一 罰金又ハ科料ハ刑法ノ規定セル年限ヲ經過セハ時効ニ因リテ其免除ヲ得ルモ過料ハ右ノ時効ヲ得ヘキモノニアラス

新 戸 籍 法

第二百一十一條 期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルニ因リ戸籍吏カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ尙ホ其届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處セラ
ルニ回以上戸籍吏ノ催告ニ應セサル者亦同シ

届出人又ハ申請人ニシテ期間内ニ届出ヲ爲サ、ルトキハ戸籍吏ニ於テ相當期間ヲ定メ届出又ハ申請ヲ催告スルコトアリ此場合ニ於テモ尙届出人ハ之ニ應セサルトキハ届出人又ハ申請人ハ本條ニ依リ貳拾圓以下ノ過料ニ處セラルモノトス而シテ右ノ過料ヲ科セラレタルニモ拘ハラズ尙ホ届出又ハ申請ヲ爲サ、ル爲メニ回ノ催告ヲ爲スモ尙ホ之ニ應セサルトキハ全シク貳拾圓以下ノ過料ニ處セラルヘク結局ニ回以上何回ニテモ同様ノ制裁ヲ附スルモノナリ

第二百一十二條 戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ

處セラル

一 正當ノ理由ナクシテ身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ヲ受理セサルトキ

二 身分登記又ハ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

戸籍吏ハ左ノ場合ニ在リテハ參拾圓以下ノ過料ニ處セラルヘキモノトス

- 一 正當ノ理由ナク身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ヲ受理セサル場合
- 二 其受付ケタル身分及戸籍ニ關スル届出又ハ申請ニ付身分登記簿及戸籍簿ニ記載スルコトヲ怠リタル場合

正當ノ理由トハ如何ト云フニ右ハ各事件ニ付事實ヲ異ニスヘキモノニシテ豫メ之レカ標準ヲ定ムルコトヲ得ス結局事實ノ認定ニ屬シ裁判所ノ判定ニ委スヘキモノトス

新 戸 籍 法

第二百十三條 戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以下ノ過料ニ處セラル

一 正當ノ理由ナクシテ身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

二 正當ノ理由ナクシテ身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ交付セス又ハ身分若クハ戸籍ニ關スル届出又ハ申請ノ受理ノ證明書ヲ交付セサルトキ

戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テ拾圓以下ノ過料ニ處セラルヘキモノトス

一 身分登記簿又ハ戸籍簿ハ相當ノ手数料ヲ納付セハ之レカ閱覽ヲ請求スルヲ得ルコトハ第十三條及第七十四條ニ規定セラレタル所ニシテ此場合ハ戸籍吏其閱覽ヲ許サルヘカラス然ルニ理由ナクシテ之ヲ拒ムハ戸籍吏ノ非行タ

新 戸 籍 法

ルヲ免カレサルヲ以テ本條ノ過料ヲ科スヘキコトトセラレタリ

二 又各人ハ相當手数料ヲ納付セハ身分登記簿及戸籍簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ受クヘキ權利アリ又届出受理ノ證明書ノ下付ヲ請求スル場合モ同様ナリ然ルニ戸籍吏ニシテ理由ナク之ニ應セサルトキハ亦本條ノ制裁ヲ免カレス

第二百十四條 本章ニ定メタル過料ノ裁判ハ過料ニ處セララルヘ

キ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

本章ニ定メタル過料ハ凡テ裁判所ノ處分ニ依ルニアラサレハ之ヲ科スルコトヲ得ス而シテ其管轄裁判所ハ何レノ裁判所トナルヤ云フニ即チ過料ニ處セララルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ其處分ヲ爲スモノトス住所及居所ノ説明ハ第六十一條ノ下ニ於テ述ヘタル所ナルヲ以テ參看スルヲ要ス

新 戸 籍 法

右ノ裁判ニ關スル手續其他執行方法等ハ凡テ非法事件手續法ノ規定ニ依ルヘキモノナルヲ以テ其手續ニ從ヒテ之ヲ爲スヲ要ス(明治三十一年法律第十四號非訟事件手續法參看)

第二百十五條 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戶籍ニ關シ詐僞ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セララル

本條ハ詐欺ノ届出又ハ申請ニ關スル制裁ヲ規定シタルモノトス詐欺トハ如何ト云フニ即チ故意ヲ以テ不實ノ届出又ハ申請ヲ爲シタル行爲ヲ云フ而シテ詐欺ニ本ツク届出又ハ申請ハ其目的トスル所必ス自己又ハ他人ノ利益ヲ計ルカ若クハ他人ヲ害セントスル意思アル者ト推定スヘキモノトス如何トナレハ自己又ハ他人ノ爲メ

新 戶 籍 法

新

戶

籍

法

ニスル所ナクシテ詐欺ノ届出又ハ申請ヲ爲スヘキ理由ナケレハナリ而シテ詐欺ニ本ツク場合ハ前四條ノ場合ニ於ケル事實ニ比シテ大ニ狀情ノ惡ムヘキモノアルノミナラス其弊害ノ及フ所尠少ナラサルヲ以テ之レカ制裁ヲシテ大ニ重カラシムルノ必要アルナリ故ニ本條ニ於テハ是等ノ者ニ對シテ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルコト、セリ即チ本條ニ依リテ科セラレタル制裁ハ純然タル刑法上ノ刑罰ナリ

附 則

第二百十六條 市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ以テ戶籍吏トシ其吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ以テ戶籍役場トス

市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スヘキ者ナキ地ニ在

テハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其事務ヲ代理スヘキ者ヲ定ム

市參事會員其他戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ吏員ヲキ地ニ於テ此等ノ者ニ代ハリテ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者モ亦前項ノ手續ニ依リテ之ヲ定ム

新 戶 籍 法

市町村制ノ施行ナキ在ニ地リテハ市町村長ノ職務ヲ執ルモノ戶籍吏ト爲リ身分及戶籍ニ關スル事務ヲ取扱フモノトス即チ北海道ノ如キ地ニ在リテハ戶長ヲシテ市町村長ノ職務ヲ取ラシムルモノナレハ戶長ハ即チ戶籍吏ニシテ其職務ヲ行フ役場ヲ戶籍役場トス

戶籍吏ノ身分及戶籍ニ關スル登記ハ市町村長又ハ戶長ノ職務ヲ代理スヘキ吏員ニ其取扱ヲ爲サシムヘキモノナレトモ若シ其職務ヲ代理スヘキ吏員ナキトキ之ヲ如

新 戶 籍 法

何ニスルヤト云フニ此場合ニハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ長ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ得テ前以テ其事務代理者ヲ定メ置クモノトス(第二條解參看)

又戶籍吏及前項ノ代理者トノ間ニ於ケル身分及戶籍ニ關スル事件ハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人、町村ニ在リテハ他ノ上席吏員ヲ於テ之レカ取扱ヲ爲スヘキモノナレトモ是等ノ代理者ナキ場合モ前項ノ手續ニ依リ地方裁判所ノ長ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス(全條參看)

第二百十七條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ハ之ヲ市町村ノ收入トス但國庫ヨリ戶籍役場ノ經費ヲ支辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ收入トス

手数料ノ金額ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法中手数料ノ納付ヲ規定セル場合即チ第十三條第六十六條等ニ本キ納付セル手

敷料ハ凡テ市町村ノ收入金トナルヘキモノニシテ即チ普通ノ市町村收入金ト同シク市町村會ノ議決ニ依リ其處分方法ヲ定ムルナリ然レトモ戶籍役場ノ經費ヲ國庫ヨリ支辨スル地ニ在リテハ其收入ハ之ヲ國庫ノモノトス但右手敷料ノ納付ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ別ニ定ムルコト、セリ

戶籍役場ノ經費ヲ國庫ヨリ負担スルハ如何ナル場合ナルヤト云フニ右ハ本法中別ニ規定ナキヲ以テ豫メ知ルコトヲ得サルモ第二百十六條第二、三項ノ地方裁判所ノ長ヨリ豫メ戶籍事務ノ代理者ヲ定ムルトキノ如キ場合ニハ之レカ經費ヲ國庫ヨリ支辨スルモノナランカ但是等ハ別ニ命令ヲ以テ定メラルヘキモノト考フルナリ

第二百十八條 本法ノ規定ニ依リ届出人其他ノ者ノ署名、捺印

ヲ要スル場合ニ於テ其者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スル

新 戶 籍 法

ヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

本法ノ規定中届出人、申請人其他ノ者ニシテ届書其他ノ書類ヘ署名捺印ヲ要スル場合ニ實印ヲ有セサルトキハ單ニ自己ノ署名ヲ爲セハ其効力ヲ有スルモノニシテ又其者ニ於テ署名スルコト能ハサル場合ハ他人ヨリ名ヲ代署セシメ其者ニ於テ實印ヲ押捺セハ宜シキナリ若シ又其者カ實印ヲ有セス又ハ署名ヲ爲ス能ハサルトキニハ他人ヨリ名ヲ代署セシメ然シテ捺印ヲ爲セハ其効力ヲ有スルモノトス前項ノ規定ニヨリ實印ヲ有セサル爲メ單ニ署名ヲ爲シタルトキ又ハ名ヲ代署セシメテ實印ヲ押捺シタルトキ若クハ捺印ヲ爲シタルトキニハ凡テ其事由ヲ記載スル

ヲ要ス

第二百十九條 明治三十一年十二月三十一日マテハ從前登記目録トシテ備ヘタル帳簿ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得

明治三十一年十二月三十一日マテハ從來市町村役場ニ備ヘ置キタル登記目録ヲ以テ本法ノ身分登記簿ニ代用シ得ルヲ以テ全日マテハ別ニ身分登記簿ヲ新調スルニ及ハサルナリ但明治三十二年一月一日以後ハ必ス身分登記簿ヲ調製セサルヘカラス

第二百二十條 登記目録ノ冊數又ハ紙數カ身分登記簿ニ代用スルニ足ラサル場合ニ於テハ明治三十一年十二月三十一日マテノ身分登記簿ニ限り戸籍吏ハ第九條ノ規定ニ拘ハラヌ登記目録ヲ作製スルト同一ノ手續ニ依リテ之ヲ作製スルコトヲ得

前項ノ規定ハ登記目録ノ設ナカリシ地ノ身分登記簿ニ之ヲ準用ス

新 戸 籍 法

前條ノ規定ニ依リ登記目録ヲ以テ身分登記簿ニ代用セル場合ニ其用紙ニ不足ヲ生シ登記ヲ爲シ能ハサル場合ハ明治三十一年十二月三十一日マテハ本法第九條ノ身分登記簿調製ノ方法ニ依ルヲ要セス從來登記目録ヲ作製シ來リタル手續ト同一ノ方法ニ依リ不足ニ對スル用紙ヲ加ヘテ之ニ登記スルヲ得ルモノトス故ニ其補充スヘキ用紙ニ付テハ別ニ裁判所ノ檢閲ヲ得ルノ必要ナシ

從來登記目録ヲ備ヘ置カサル地ニ在リテモ前項ノ手續ニ依リ之ヲ調製シ得ルヲ以テ是亦明治三十一年十二月三十一日マテハ第九條ノ手續ニ依ルヲ要セサルモノトス

第二百二十一條 本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキ時期ハ各地又ハ一般ニ付キ司法大臣之ヲ定ム

本法施行後戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ於テハ其記載又ハ編製ニ付テハ本法ノ規定ニ從フコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ其事實ヲ知ルコト能ハサルモノ又ハ従前ノ戸籍用紙中其事項ヲ記載スヘキ區畫ノ設キモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

本法實施以後ハ從來ノ戸籍簿ニテハ其儘使用シ得サルヲ以テ之ヲ改製スルノ必要アルハ勿論ナリ但此改製ノ時期等ハ司法大臣ヨリ別ニ命令ヲ以テ定ムルコト、セリ

本法實施以後戸籍ノ記載ヲ爲スヘキトキ又ハ家督相續、分家廢絶家再興等ニ依リ新タニ戸籍ヲ調製スル場合ニハ凡テ本法ノ規定ニ從ヒテ記載セサルヘカラス但其記載ヲ要スル事項ニシテ實際事實ノ判明セサルモノアルトキ又ハ従前ノ戸籍用紙

新 戸 籍 法

新

戸

籍

法

中其記載スヘキ欄ナキ場合ハ其記載ヲ省零スルコトヲ得尤モ此規定ハ前條ノ戸籍改製以前ニ係ル場合ヲ云フモノニシテ改製後ニ至リテハ本法規定ノ各事項ヲ記載スルハ勿論ナリ

第二百二十二條 明治四年四月四日布告戸籍法、明治十九年内務省令第十九號及ヒ同年内務省令第二十二號ハ寄留ニ關スル規定ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止シ其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ抵觸シ又ハ重複スルモノハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

寄留ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用ス

本法實施以後明治四年四月四日布告戸籍法、明治十九年内務省令第十九號及全年内務省令第二十二號ハ寄留ニ關スルヲ部分ヲ除キ他ハ全部廢止トナレルヲ以テ今後ノ取扱ハ凡テ本法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ又右ノ外他ノ法令等ニシテ本法ノ

規定ト抵觸セルモノ若クハ重複スルモノハ當然廢止トナルナリ

前項ニ述ヘタル如ク寄留ニ關スル事務ニ付テハ従前ノ規定ニ依リ取扱ヲ爲スヘキモノニシテ該事務ノ監督方法モ亦本法第五條ノ規定ニ本キ區裁判所ノ判事ノ一人又ハ監督判事ニ於テ之カ監督セラルヽコト、セリ

第二百二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ノ施行期日ハ即チ本年六月二十一日勅令第二百二十三號ヲ以テ本年七月十六日ヨリ實施スヘキ事ニ定メラレタリ

● 附 錄

司法省令第十三號

戶籍法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ノ金額左ノ通り相定ム

明治三十一年七月十二日 司法大臣 大東 義徹

第一條 身分登記簿又ハ戶籍簿ノ閱覽ヲ請求スル者ハ金拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 身分登記又ハ戶籍ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スル者ハ一枚ニ付金拾錢ヲ納ムヘシ其一枚ニ滿タサルモノト雖モ亦同シ但枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 身分又ハ戶籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書

ヲ請求スル者ハ一件ニ付金五錢ヲ納ムヘシ

第四條 手數料カ國庫ノ收入トナルヘキ場合ニ於テハ前三條ノ

請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル手數料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之

ヲ納ムヘシ

新 戶 籍 法 註 解 畢

明 治 卅 一 年 七 月 十 一 日 印 刷
同 年 同 月 十 八 日 發 行

正 價 金 卅 五 錢

編 輯 者

遠 藤 利 造

新 潟 縣 新 潟 市 東 大 畑 通 一 番 町
第 二 十 四 番 戶

印 發 行 者 兼

小 林 二 郎

新 潟 縣 新 潟 市 東 仲 通 壹 番 町
第 四 十 二 番 戶

印 刷 所

小 林 活 版 所

新 潟 縣 新 潟 市 東 仲 通 一 番 町
第 四 十 二 番 戶

(本 書 ハ 正 價 金 參 拾 五 錢 郵 稅 四 錢 御 送 金 候 ハ 直 ニ 送 本 可 仕 候)

公告

新潟縣屬遠藤利造君著

● 戶籍吏必携

右ハ戶籍取扱手續ニ本キ實際上ノ事例ヲ類集シ且身分及戶籍ニ關スル諸屆書及ヒ申請書ノ雛形ヲ集メタルモノニテ戶籍取扱者ニ在リテハ新戶籍法註解ト共ニ必ス坐右ニ備置クヘキ書トス依テ弊店ニ於テ出版致候ニ付續々御申込被下度候也

一部正價金貳拾五錢●紙數凡二百頁
●本月下旬出版豫約者一部貳拾錢郵
便四錢豫約申込期限本月廿五日期限

● 戶籍用紙

今般發布相成タル戶籍取扱手續ニ依リ戶籍用紙改正相成候ニ付右用紙印刷致置候間多少ニ拘ハラヌ御購求相願度候也

美濃上等用紙 一號用紙 二號用紙 壹枚四厘五毛

● 親族及相續篇實用

民法第四篇及第五篇ニ就キ實際ノ適用事實ヲ集メ且ツ問答体ヲ以テ全篇全部ノ疑問ヲ論定セル書ナリ

出版期日確定ノ上改メテ公告ス

長三洲先生題箋
樂翁公 演 ●大學講義 全一冊
美本内山紙摺
綴紙六十頁余
正價六拾五錢

村山半牧書
●僧良寛歌集 全一冊 正價貳拾錢

新瀉縣管内 新瀉縣藏版
●里程實測圖 全一折

新瀉縣管内 新瀉縣藏版
●里程實測圖 全一折
定價六拾五錢 ●上等クロス仕立四拾五錢
並仕立廿五錢 ●切手代用不苦候郵税金二錢

三十年八月新版
●新瀉市實測圖 全一折
定價貳拾五錢

●新瀉市圖 全一折
定價八錢

●北越名士傳 全三冊

栗林左一郎君編輯
改正 ●新瀉縣管内實測圖 全一折
定價壹圓六拾錢 豫約直金五拾錢

明治三十一年月改正
新瀉縣稅務管理局 ●官員錄 全一冊

新瀉縣稅務管理局 ●官員錄 全一冊
澁谷愛太郎君註釋
●方丈記註釋 全一冊 正價拾貳錢

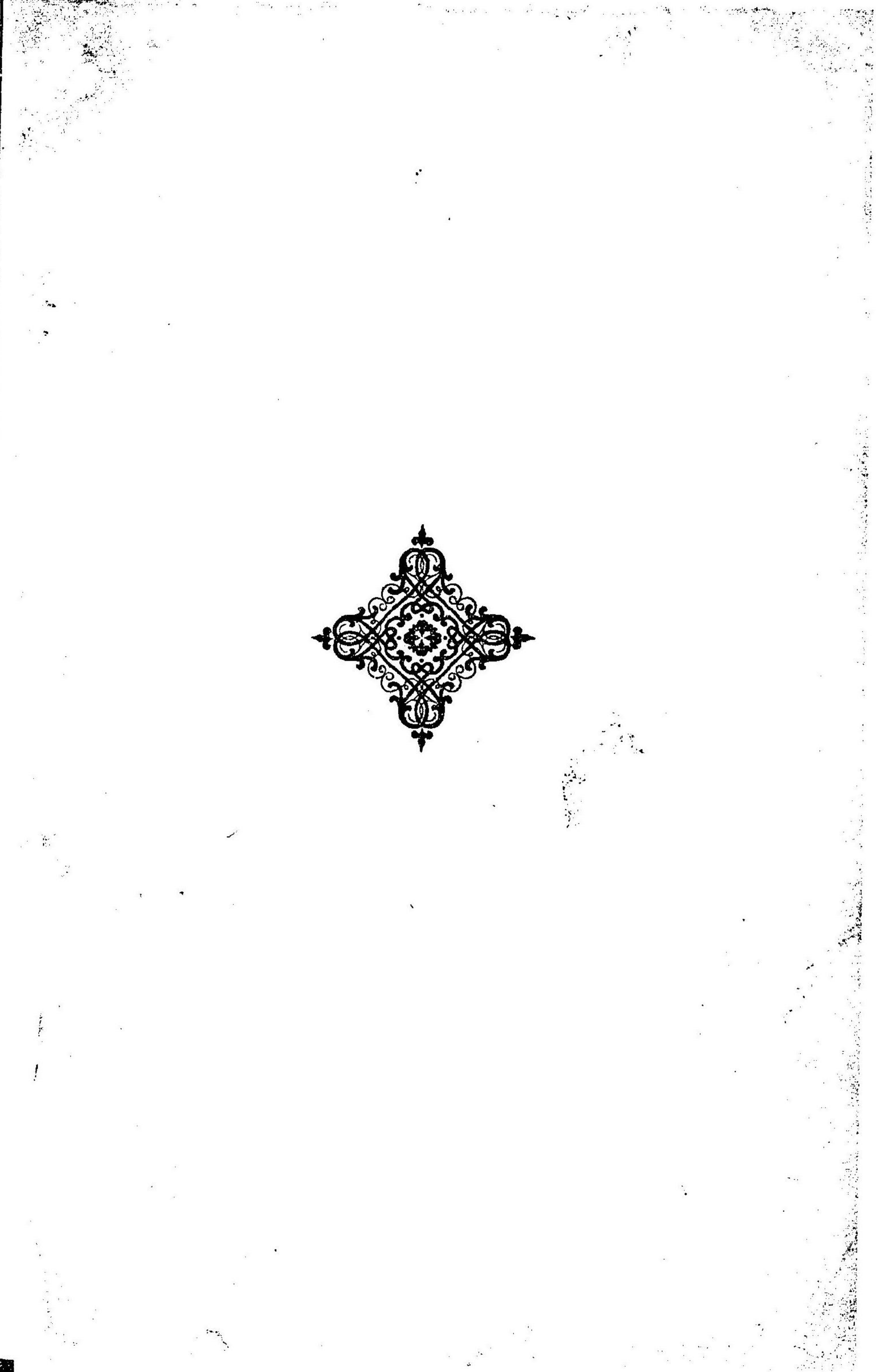
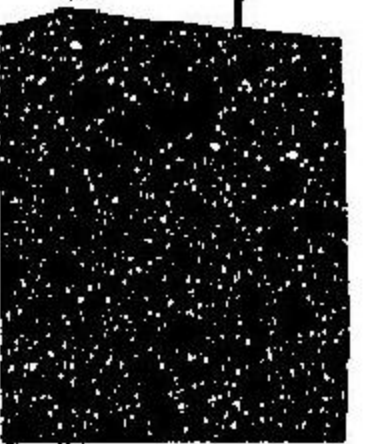
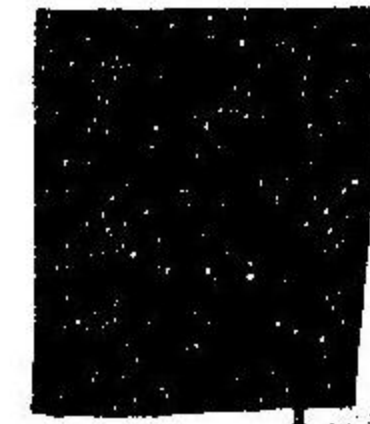
椿時中著
●孝經淺說 全一冊 正價拾貳錢

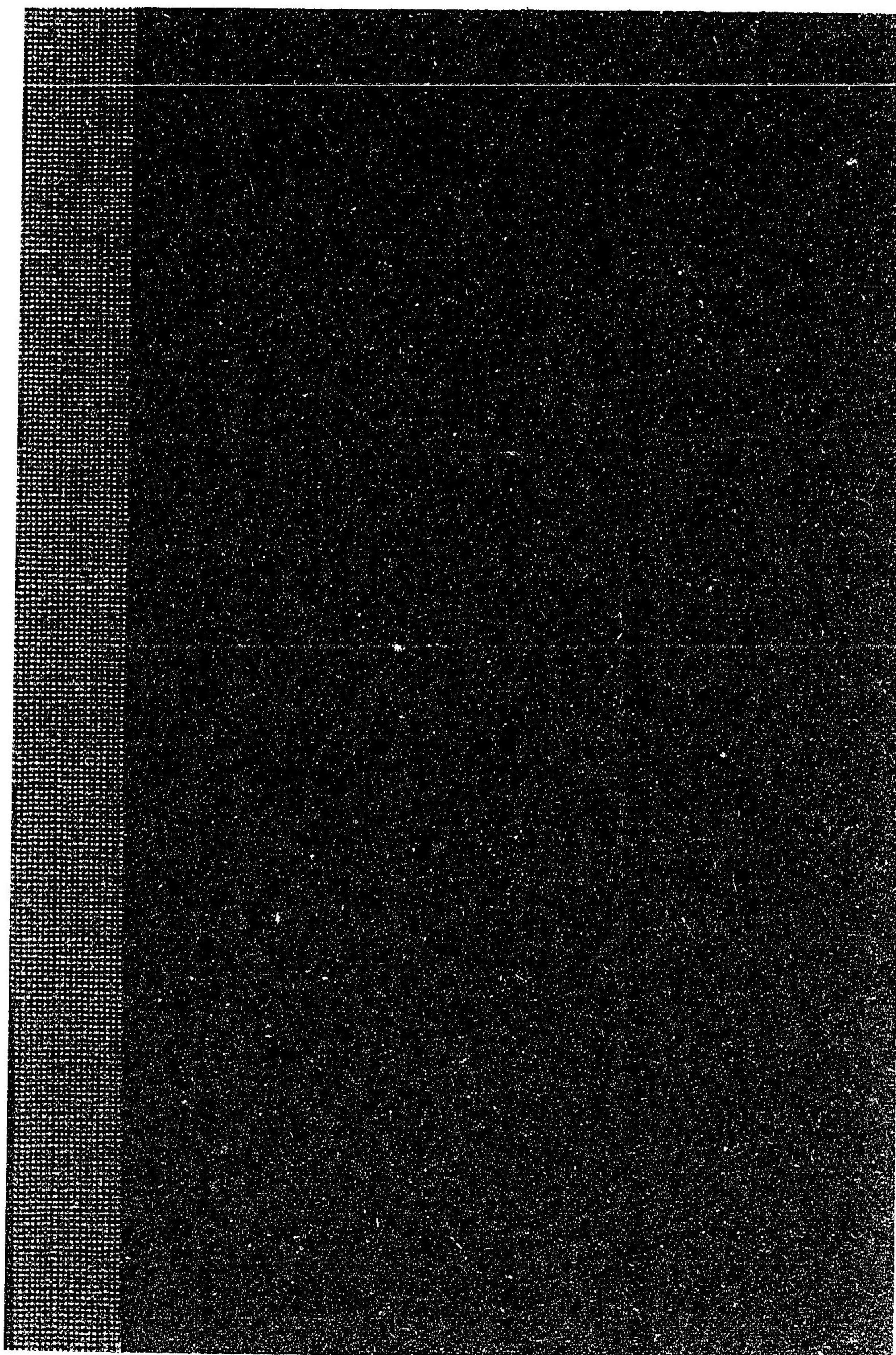
●越佐碑銘集

新瀉市東仲通一番町
活版石版印刷請負所

精華堂 小林活版所

弊舖義江湖各位の御引立を蒙り益繁榮に赴き拙舖の幸福之れに過す實に難有奉深謝候依て右書籍
精々低價を旨とし發賣仕候間陸續御購讀を願ふ
日活版石版印刷の義は速製鮮明緻密麗艶に専ら技術の巧妙を主とし從來の價格を低くし廣く公私
の便益を計るを弊舖の主義専務となせは尙一層舊に倍するの眷顧を冀ふ





特14

74

新戸籍法注解

遠藤利造

国立国会図書館

034631-000-6

特14-74

新戸籍法注解

遠藤 利造/著

M31

BBM-0154

